



しらね



ホームページアドレス: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shirane/>

温かい心に感謝しています

校長 神倉 美智子

新しい年が始まりました。

昨年は、新型コロナウイルスによって世界中が大混乱に陥るといふ激動の年でした。学校も平和に過ごせたのは1～2月だけで、3月からは一転、かつて経験のない対応を迫られる波乱の1年間となりました。未知のウイルスに対し、子ども達や校内に感染が広がらないよう、手探りでしたが、教職員一丸となって取り組んでまいりました。

苦悩もありましたが、その中で、折に触れて地域の方や保護者の皆様に、温かいお言葉やご支援をいただき、どれだけ心強く励まされたかわかりません。

午前・午後に分かれて2部授業を行っていた分散登校の時、私たちは少人数での登下校に少し不安を持っていましたが、学援隊の皆さんは、通常の登下校時間と違うにも関わらず、要所要所に立って子どもたちの見守りをしてくださいました。それだけでなく、「先生たち、お疲れ様」と、差し入れまで持ってきてくださったこともありました。

また、一斉登校が再開し教室の人数が増えると、ある保護者の方が、「会社で手配できたマスクがありますので、学校で使ってください」と、当時まだ入手困難だったマスクを大量に寄付してくださいました。毎日子供たちと接している教員は何より困っていた時期でしたので、本当に助かりました。

さらに、別の保護者の方からは、「お店で使おうと手配したアルコールがたくさんあるので、教室で活用してください」と大きなタンクをいくつもくださいました。マスク同様、手指消毒のアルコールも入手に困っていた時期でしたが、おかげで早々と各教室に設置できました。

どの方も、自分だけ良ければという考え方でなく、みんなで助け合って生きていこうという、根底に流れる温かい考え方が同じなのではと思います。このような考え方の方が多くいれば、このコロナウイルスの問題も解決していけるのではないのでしょうか。

現在も感染は拡大が止まりません。保護者の皆様にもなかなか学校に入らせていただくことができず、残念に感じているらっしゃることと思います。それでも、学校に苦情を寄せられる方はなく、全保護者の方がご協力くださっていることに、心から感謝申し上げます。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

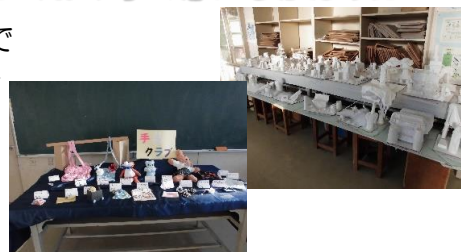


◆ 1月の目標 ◆

- 【生活】学校のきまりを見直そう
- 【保健】かぜの予防をしよう
- 【給食】好き嫌いをなく
何でも食べよう

作品展★2020 ～しらねっ子の思いをかたちへ～

12月10日から17日まで
作品展が行われました。しらねっ子たちの思いや工夫が詰まった素敵な作品が、学校中に並びました。





5組

1年生との交流会

人権週間の取り組みとして、1年生と交流会を行いました。5組に関するクイズやパラバルーン、ダンスなど、高学年を中心に一緒になって遊びました。交流会は毎年行っているのですが、自分たちで自信をもって進めることができました。中学年も5組のことを知ってもらうためにたくさんのクイズを考えていて、それぞれが輝いた交流会になりました。



1年生

大きな大根を収穫しました♪

地域の斎藤さんの畑をお借りして育てた大根を収穫しました。あっという間に大きくなり、1年生の背丈の半分ほどもあるずっしりと重い立派な大根になりました。両手に大きな大根を抱えて運ぶのは大変でしたが、最後にみんなで校庭や道路に落ちた葉をきれいに拾うところまで一生懸命に頑張りました。

自分が育てた野菜を家庭で食べたり、給食で全校のみんなに食べてもらったりしたことも大きな喜びとなったようです。



2年生

サツマイモを収穫しました！

斎藤さんの畑で育てさせていただいていたサツマイモが立派に育ち、収穫しました。サツマイモは土の中でとても大きく育っていて、みんな掘り出すのに苦労しましたが、その分収穫の喜びも大きかったようです。サツマイモは、給食で大学芋にして全校の皆さんに食べてもらいました。

収穫した後は、ツルの部分を使ってリースを作りました。リボンや綿などの飾りを付け加えて、季節に合った素敵なリースを作ることができました。



3年生

ボッチャの体験をしました！

人権週間の取り組みとして、3年生はボッチャの体験をしました。旭区地区リハビリ連絡会旭区おりしす会、ふたば会の方に来ていただき、ルールを優しく教えてもらいながら交流しました。ボッチャはパラリンピックの競技にもなっていて奥が深く、実際にやってみることでそのおもしろさを感じていました。また、ボールが弾まないようにできていること、障害がある人もない人もだれもが楽しめるように工夫された競技であることにも気づき、来年のパラリンピックでボッチャを見るのが楽しみになったようです。





4年生

「思いやり」って何だろう &

彫刻刀で咲かせる不思議な花

人権週間の取り組みの一つとして、View-Net神奈川から三嶋さんにお越しいただき、お話を聞きました。「障害」とは、社会の中にあり、私たち一人ひとりの行動でうまれてしまうことに気がきました。「思いやり」をもった行動の大切さを改めて学びました。

図画工作「ほると出てくる不思議な花」では、初めて彫刻刀を使いました。彫刻刀の種類や使い方を知り、安全に気を付けながら取り組みました。一人ひとりが工夫をしながら、思いのこもった作品を仕上げました。



5年生

「してあげる」ではなく「してあげたい」

12月8日に、5・6年生は人権週間の取り組みの一つとして、元パラアイスホッケー（アイススレッジホッケー）選手の上原大祐さんのお話を聞きました。バンクーバーパラリンピックで取った銀メダルを見せてくれたり、車いすバスケット体験をしたりしました。その中で、弱みではなく強みを伸ばしていくこと、スポーツも日常生活も「してあげたい」という気持ちで接することが大切だということを教えていただきました。子どもたちは“大ちゃん”の気持ちに共感し、これからの自分に生かしていきたいという思いをもったようです。



6年生

卒業文集を書いています

今、卒業アルバムに載せる文集を一人ひとり一生懸命書いています。小学校生活での楽しかった思い出や、学んだことなど、様々な経験をしてどのように成長したのか、これからどんなことを大切にしていきたいかを自分の言葉でまとめています。進路に迷ったとき、自分の原点に戻りたいとき、過去を懐かしみたいときなどに卒業アルバムを開いて、読んだ後に前に進むヒントとなれば…と思います。アルバムが渡される日まで楽しみにしててください。



人権週間の取り組みについて

白根小学校では、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」をねらいとして、1月30日～12月11日の人権週間として設定し、取り組みました。

全校で行った取組は、児童福祉委員会の提案で代表委員会でも話し合った「あいさつの木」の取組です。1回目の取組では、たくさんの人にあいさつをすることを意識していましたが、その振り返りから、気持ちをこめてあいさつをすることの大切さに気が付き、2回目の取組に生かしました。この取組を通して、進んであいさつをすることを意識したり、あいさつが帰ってきたときの気持ちよさを感じたりする姿が多く見られました。相手を認めること、自分を認めてもらえること、その第一歩があいさつではないかと思います。これからも気持ちのこもったあいさつが、学校中にあふれるといいなと思います。人権週間は終わりましたが、これからも一人ひとりが『自分も』『相手も』大切にしながら、笑顔あふれる楽しい学校生活が送れるようにしていきたいです。



